

# たばこ製造業の地球温暖化対策に係る取組について (JTグループにおける地球温暖化対策への取組)

令和5年4月27日  
日本たばこ産業株式会社



# 目次

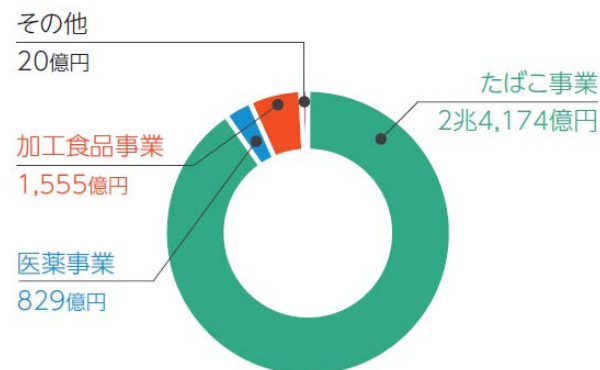
1. たばこ製造業界及び当社グループに関する概要
2. 温室効果ガス削減に向けた取組
3. 温室効果ガス削減の各目標と2021年度実績
  - ① 直接的温室効果ガス排出量
  - ② 間接的温室効果ガス排出量
  - ③ 再生可能エネルギー電力の導入
4. 主な地球温暖化対策への取組

# 1. たばこ製造業界及び当社グループの概要

## ● たばこ製造業界の概要

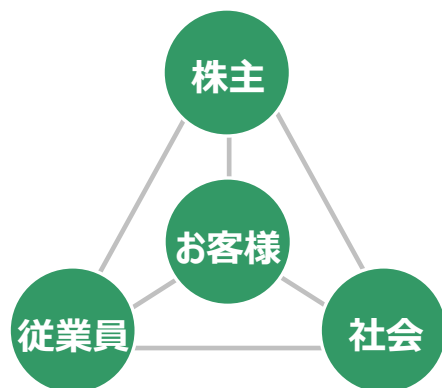
業界及び業界団体の規模	
企業数・団体加盟企業数	1社
売上規模	売上高 5,422億円（2022年）

（参考）JTグループ売上収益：2兆6,578億円（2022年）



## ● 当社グループの経営理念（4Sモデル）

お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていく



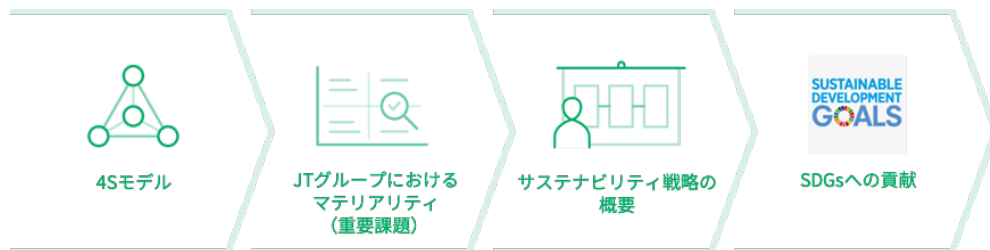
### 経営資源配分方針

- 4S モデルに基づき、経営資源の配分を実行
  - ✓ 中長期に亘る持続的な利益成長につながる事業投資を最優先
  - ✓ 事業投資による利益成長と株主還元のバランスを重視

# 1. たばこ製造業界及び当社グループの概要

## ●JTグループサステナビリティ戦略の概要

- ・ 長期的な事業成長を支えるサステナビリティへの取組を経営の中核に設定
- ・ 当社グループのサステナビリティ戦略は、経営理念である4Sモデルに基づき、マテリアリティ（重要課題）分析を踏まえて策定
- ・ グループ共通の3つの基盤および各事業毎に注力分野を定め、KPIを設定のうえモニタリング・開示を実行
- ・ 環境負荷の軽減をサステナビリティ戦略における3つの基盤のひとつに位置づけ



## JTグループの3つの基盤



人権の尊重



環境負荷の軽減 /  
社会的責任の発揮



良質なガバナンスと  
事業規範の実行

## 2. 温室効果ガス削減に向けた取組

- 当社グループでは、従前より温室効果ガス削減に向けて、再生可能エネルギー由来の電力導入や温室効果ガス削減施策に鋭意取り組んできたところ
- 各国においてカーボンニュートラル/ネットゼロ宣言がなされる等、脱炭素化に向けた社会的要請はより一層の高まりを見せており、当社グループも改めてエネルギーおよび温室効果ガス関連の新たな目標設定と取組の加速化の必要性を認識  
この目標設定の有り方等については、国際的なイニシアチブであるSBTi(Science Based Targets initiative)による推奨を踏まえ、世界の気温上昇を産業革命前と比べ、1.5℃に抑えるという目標に向けて科学的根拠に基づいた目標を設定することを志向
- 2022年に「2050年までにバリューチェーン全体でGHG排出量をネットゼロにする」こと、加えてそのマイルストーンとして2030年までの当社グループ事業におけるカーボンニュートラル達成に向けた目標に設定し、取組の加速化を図っているところ
- 上記の具体的な目標は以下の通り
  - 2030年までに直接的温室効果ガス排出量(Scope1、2)のGHG排出量を2019年比47%削減
  - 2030年までに間接的温室効果ガス排出量(Scope3)のうち、購入する原材料・サービスに由来する温室効果ガス排出量を2019年比28%削減
  - 2030年までに、事業活動で使用する電力の50%、2050年までに100%を再生可能エネルギー由来へ
- なお、現時点では目標に対し、順調に推移

# 3. 温室効果ガス削減の各目標と2021年度実績

- 更新した各目標に対し、いずれも順調に推移
- 今後は太陽光発電パネルの設置やグリーン電力証書の購入に加え、非化石証書の購入の検討を進め、ネットゼロを目指す

## ① 直接的温室効果ガス排出量

- 目標：2030年までに、直接使用する燃料・電気等によって発生する温室効果ガス排出量を2019年比で47%削減
- 2021年度実績：▲12%

## ② 間接的温室効果ガス排出量

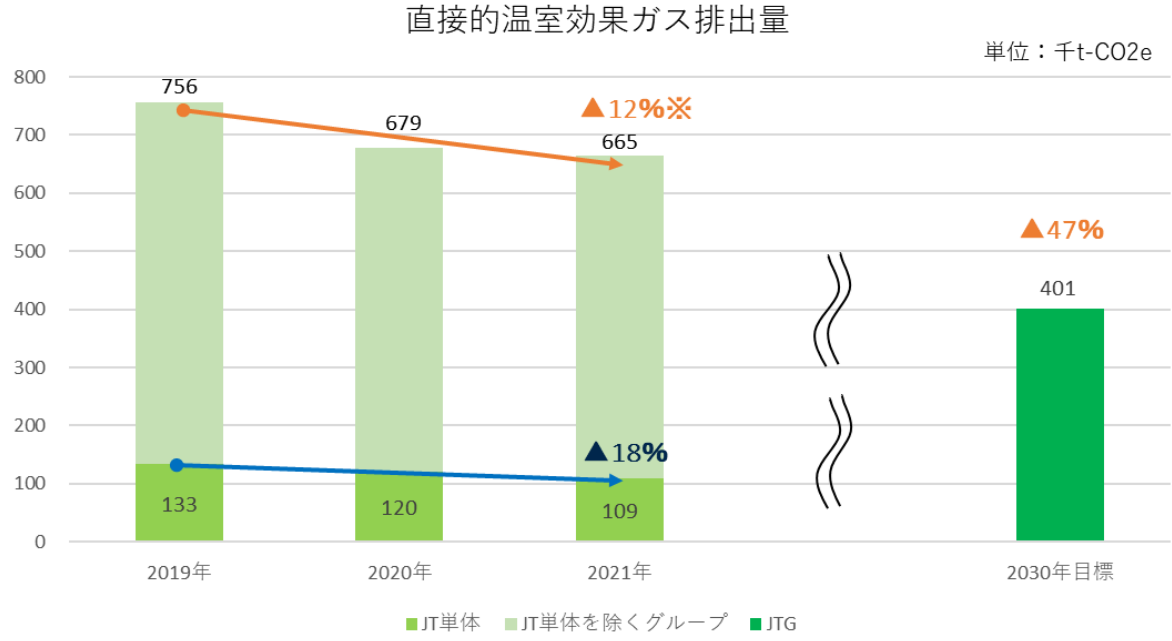
- 2030年までに、購入する原材料・サービスに由来する温室効果ガス排出量を2019年比で28%削減
- 2021年度実績：▲25%

## ③ 再生可能エネルギー電力の導入

- 2030年までに、事業活動で使用する電力の50%、2050年までに100%を再生可能エネルギー由来へ
- 2021年度実績：23%

# 3. ① 直接的温室効果ガス排出量

- ・ 2021年実績は当社グループ全体で2019年比12%削減。2030年目標達成に向けて順調に推移
  - JT単体については、2019年比18%削減



※2030年目標（▲47%）に対する、2021年時点の達成目安は▲8.4%程度

当社グループの直接的排出量：当社グループ事業所又は所有の自動車から排出される温室効果ガス

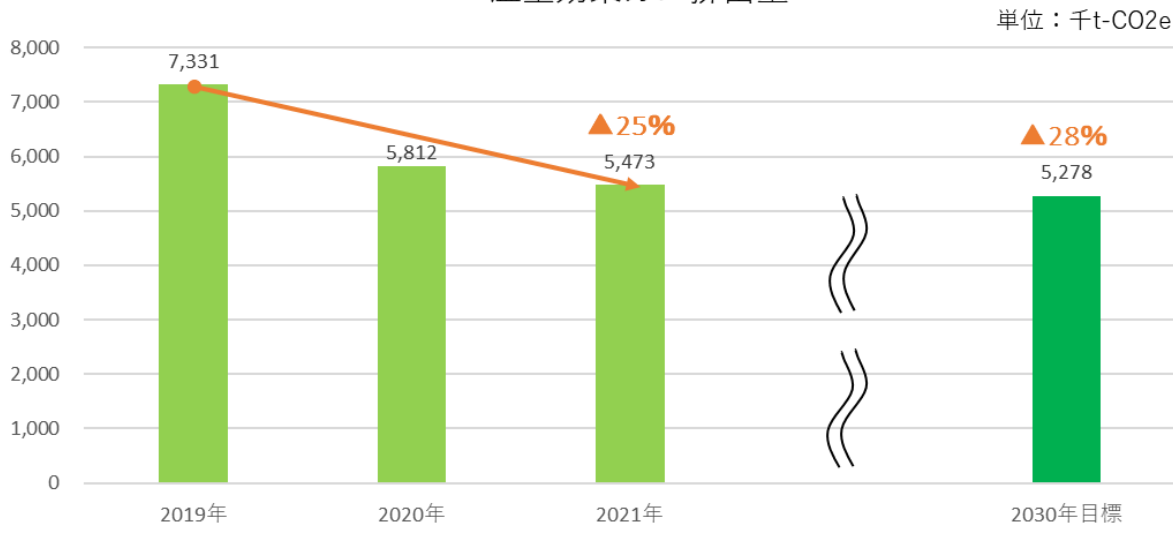
- ・ガソリンや都市ガス等の使用に起因する排出
- ・電気等の第三者が作り出すエネルギーに起因する排出



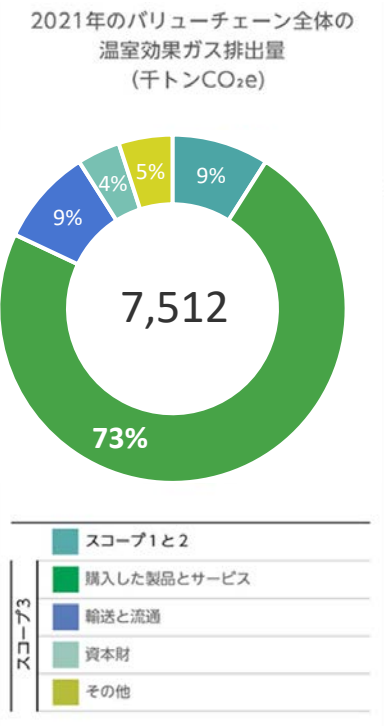
# 3. ②間接的温室効果ガス排出量

- 購入する原材料・サービス由来の温室効果ガス排出量は、当社グループ全体で2019年比25%削減
  - 葉たばこ調達量の減少や、サプライチェーンにおける原材料の脱炭素化影響により目標に対して順調に推移

購入した原材料・サービスに由来する  
温室効果ガス排出量



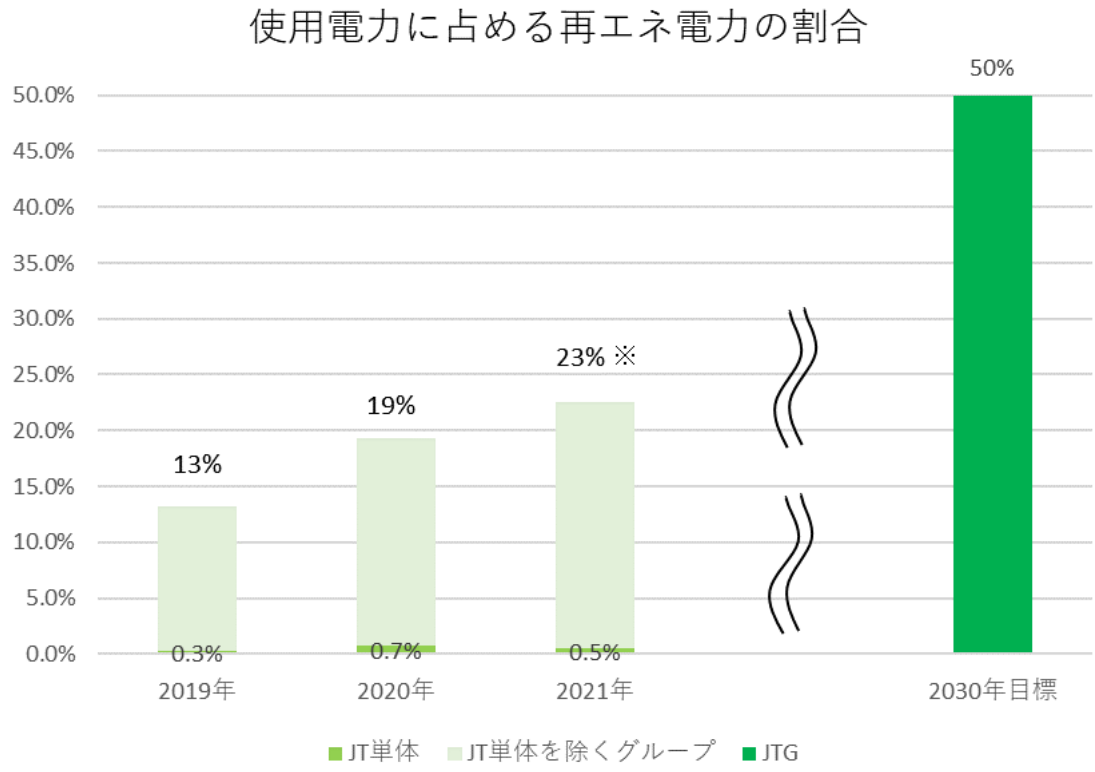
※2030年目標（▲28%）に対する、2021年時点の達成目安は▲5.0%程度





# 3. ③再生可能エネルギー電力の導入

- 2030年目標の50%に対して、JTグループ全体では2021年23%と順調に推移
  - JT単体が当社グループ全体に占める割合は僅少も、太陽光発電パネルの設置やグリーン電力証書の購入に加え、非化石証書の購入スキームを検討している



※2030年目標（50%）に対する、2021年時点の達成目安は20%程度



# 4. 主な地球温暖化対策への取組-1

## ● 2020、2021年実施の主な削減施策

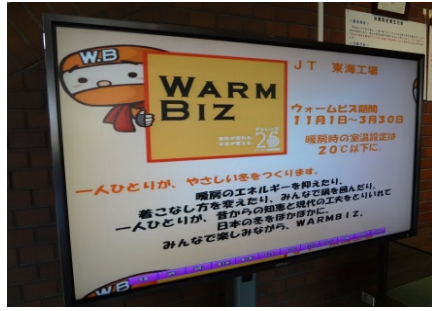
- ・ 製造部門における、冷凍機・ボイラー等の更新、照明のLED化、空調ファンの運転最適化、グリーン証書の購入など
- ・ 運輸部門における、営業車や配送用トラックなどの業務用車両の低燃費車への切替
- ・ 業務部門における、照明の間引きやクールビズ・ウォームビズに基づく室温の調整



(グリーン証書【熱、電気】)



(電気トラックの導入検証)



(ウォームビズの啓発)

## ● 削減施策に係る主な投資額等

- ・ 工場等における生産設備の改善等 (当社グループ全体) 2020年：約24億円／2021年：約12億円
- ・ 葉たばこ農家に対する環境負荷低減型循環乾燥室導入に関する助成 2020年：約2.2億円／2021年：約1.2億円



(環境負荷低減型循環乾燥室)



# 4. 主な地球温暖化対策への取組-2

## ●環境マネジメント

- ・ 当社グループのたばこ工場ではISO14001を取得（2021年77%） 国内では100%
- ・ 工場以外の事業所については、ISO14001に準拠するシステムを策定・利用し、事業所の環境に与える影響の程度に応じて環境マネジメントを実施
- ・ 森林保全活動（JTの森：計9箇所、1,580haの緑化活動）



（JTの森）

## ●対外コミュニケーション／外部評価

- ・ 統合報告書及びインターネットを通じた情報発信を積極的に実施  
（ <https://www.jti.co.jp/investors/library/integratedreport/index.html> ）
- ・ CDP 気候変動では、2022年最高評価であるAリスト企業に選定  
※機関投資家と国際NPOのカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト(CDP)が連携し、企業に対して気候変動への戦略や具体的な温室効果ガスの排出量に関する公表を求めている（毎年時価総額の大きい企業に地球温暖化対策に係る質問票を送付・集計）

